

大濱信泉プロジェクト『勇気づけの教育』の推進 (54)

～ 1人1台端末を活用しよう③ ～



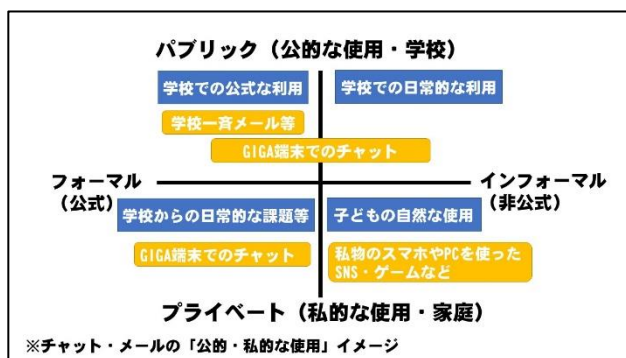
石垣市教育委員会 学校教育課指導主事 伊波勇史

「世界的に見れば、日本は少なくとも10年以上他国から取り残され、しかもその格差はより著しいものになっている」

これは、何についての格差だと思いますか。実は、日本の学校内外におけるICT活用頻度の格差です。

PISA調査という一度は耳にしたことがあると思いますが、3年に一度行われており、義務教育修了時の15歳生徒を対象（日本では高校1年生）とした国際的な学習到達度調査です。文頭の文章は、このPISA調査から明らかになったものです。その中で、「コンピュータを使って宿題をする・課題を提出する・協働作業をする・チャットをする・Eメールを使う」などの項目に全体平均との開きがありました。つまり、世界では、もう当たり前に取り組んでいることが、日本では、まだ取り組んでいなかったのです。

一つ例を挙げてみます。あるインターナショナルスクールでは、次のようなことがメールで宿題として出されているそうです。①URLの文法の課題を明日までにやる ②算数の割り当て課題を金曜までに終わらせる ③ブログ記事の作文を完成させる ④6人の友だちのブログ記事にコメントする。これらは、いずれもオンライン上で行う課題であり、ブログの記事まとめ等は欧米では比較的一般的な方法だとされています。



また、国際的には、メールやチャットの使用もごく普通にあり、先生と生徒の連絡手段ツールの一つであります。一方、日本の子どもたちにとってのメールやチャットといえば、個人的でプライベートなものという概念が強く、学校ではあまり使われてこなかったのが現状でした。

石垣市では、どのような活用になっているかという、目が届きにくくなる夏休みは、チャットのトラブルが起こるのではないかという学校や保護者からの心配の声もあり、GIGA端末でのチャットの使用を規制しています。しかし、本来は、配布したGIGA端末は学習に使用するものであり、チャットについても、私的なやりとりには使うべきではありませんし、規制をかけず児童生徒がルールを守り、適切な使い方をしていくことが理想です。今後は、情報モラルとして、メールやチャットの公的・私的な使用を分別していけるよう、ルールやマナーについても考えさせ、規制を解除していく予定です。

さて、ここまで不安を抱かせるような文章になってしまいましたが、安心してください。

先に述べたこれらの結果は、2018年の調査結果からいえることです。GIGA スクール構想がスタートした今、学校と家庭での取り組みにより、これらの課題は少しずつ解決されていくことでしょう。そして、児童生徒自身も、オンライン上で「責任と品位ある行動」をとり、自覚をもってデジタルと向き合い学んでいくことを期待しています。

結びに、せっかくの夏休みです。GIGA 端末を使い、調べ学習や AI ドリル、タイピング練習等に取り組んでみてください。本市の児童生徒が、デジタルテクノロジーの善き使い手となり、日々の生活や学びに役立てるために GIGA 端末を活用していけるよう学校・保護者・地域が一体となって見守っていくことを重ね重ねお願いいたします。

〈参考文献〉「デジタル・シティズンシップ」坂本旬ほか、2020.大月書店